

会 議 録

会議名	第12回まちづくり委員会		
開催日時	平成21年2月17日(火) 午後7時00分～9時00分		
場 所	消防署小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 垣内勝司、根橋久子、牛丸喜美子、三堀善業、原美子、熊谷久司、小澤一智、赤羽武栄、山寺恭子、中谷一美、小林代治 (町) 宮原(修)、宮原(利)、翠川	出席人数	
		委員	11人
欠席者 (敬称略)	(委員) 遠藤清文、倉田英 勇	町	3人
		計	14人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 配布資料の確認 4. 協議事項 (1) 地域発元気づくり支援金事業について (2) 手引き書について 5. その他 6. 閉会		
資 料	(事前配布) ・手引き書案 (当日配布資料) ・広報たつの掲載記事案 ・手引き書案		
会議結果	○手引き書作成後の活用方法の方向性を検討しました。 ○次回委員会 平成21年3月6日(金) 午後7時00分～		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会		
委員長	<p>前回の委員会で、協働のまちづくりパンフレット作成事業を「地域発 元気づくり支援金事業」に挙げていくという事で、先日事務局がヒアリングを受けてきました。先ほど事務局と打合せをし、支援金採択のポイントである「モデル的で発展性のある事業」という部分が弱いとの指摘がありました。</p> <p>つきましては、本日は予定されていた議題を変更し前半はパンフレットの活用法や講習会・研究会について話し合いをお願いしたいと思いますのでよろしく申し上げます。</p>		
	協議事項		
委員長	ヒアリングでの指摘があるようにパンフレットの制作のあと、どのように活用するかが大切になってくると思います。いかがでしょうか。		
A委員	当初の目的は、住民に理解してもらうという事でしたので、完成後、スライドを作り町政懇談会のように各地区を回り、事例紹介等をしながら協働のまちづくりを推進していくのはどうか。		

B委員	社協が中心になっておこなった「ささえあいマップ」の時には、各地区を精力的に回った。区の機能を発揮させていく事が重要。
委員長	県に協働のまちづくりに関するスライド等があれば借りて、各地区を回る際に活用できればと思う。目で見る視覚効果は大きい。
C委員	協働のまちづくりを進めるために、区だけではなく、有志でやっている団体を巻き込み繋がりを作る事も必要だと思う。最近の「人が集いにぎわう町づくり懇談会」の様な形のミニ版が各地区に出来ればと思う。そのような団体が横につながるためにこのパンフレット使えば良いと思う。
委員長	確かに区というひとつの行政組織なので、それだけよりももっと私的な集まりの団体が係わっていける形の方が良いと思う。
A委員	時間がかかってしまうので、公民館組織ならすぐに動けると思う。
委員長	県や町の出前講座と連携して活用できる。社協やボランティアセンターでも使ってもらえればと思います。
事務局	ヒアリングを受けたなかでは「モデル的で発展性のある事業」がポイントという事で、アドバイスとして言われた事は「辰野町らしさ」が出せないかという事でした。例えば保育園から大学まである町として、学校と連携したシンポジウムや学習会や社協やボランティア団体と協力した研究会等のイベントなどが考えられればいいのかと思います。 スケジュール等も皆さんから意見がいただければ申請の添付資料として提出したいと考えています。
C委員	辰野町は、辰高や豊南がまちづくり非常に貢献していると思います。商工会の朝市に参加したり町民会議に出席したりしていますので、これは辰野町の特徴と言って良いのでは。各学校でおこなっている協働事例のようなものの紹介をしてみるというのもおもしろいと思います。
委員長	スケジュールについては、パンフレットが完成次第、順次開催していくという事になると思います。
D委員	私が以前からテーマをひとつにと言っていたのはこのことにつながると思います。例えば、辰野町は教育費を上げないというテーマにすればそのために、給食の材料は地産地消で、美しい里山を作れば交流が出来るなどいろいろな方法を考えるようになります。その結果「教育費を上げない」ということができれば、これが辰野町らしさということになると思います。 他の市町村でも考えている事でも、それを実行に移せば辰野町らしさになると思います。

E 委員	パンフレットを活用したシンポジウムを開催する際に、全国的に協働のについて有名な方呼んで、講演などが出来ればと思います。
F 委員	新しい団体の創出や各地区にあると思われる水面下で活動している団体が発表できる場が出来れば良いと思う。
事務局	皆さんから様々な意見をいただきました。先ほどから話が出ているように学生が積極的にまちづくり参加しているという面をアピールし、世代を超えたつながりやシンポジウム、地区を回る勉強会のようなものを追加資料としてあげていきたいと思ひます。
委員長	それでは、前回に引き続き、パンフレットの検討に入っていきます。
事務局	今回お配りした資料は、開催通知と同封した物の他に、熊谷委員の提案された手引き書と広報たつの3月号に掲載を予定している記事です。
委員長	③④について検討をお願いします。
C 委員	実際におこなっている事業と協働を広めるための事業の2通りの事業があると思うので③に広めるための事業④に実際に行っている事業を載せたらどうでしょうか。
副委員長	それぞれのページが内容が重ならないような検討が必要になってくると思ひます。
C 委員	協働を広めるための事業としては、人が集いにぎわう町づくり懇談会やまちづくり委員会、ふれあい広場、支え合いマップなどが挙がると思ひます。
D 委員	私は、同じ目標に向かって活動しているという同心円を描きたいです。一番の外回りは実際の活動を載せ、だんだん目的とする中心に向かっていく様子が表現できればと思ひます。目的は辰野町をどのような町にしたいという事でそのために行う活動を周りに入れていけば表現できると思ひます。
委員長	私は③では実際に行われている事例を紹介し、④には効果と進め方を載せたらいいのではないかと思ひます。
A 委員	③にはまちづくり委員会などの団体やサークルで行なっている事例を載せたらどうでしょうか。
G 委員	私個人としては、このパンフレットを人が集まるという事を全体のテーマとしたい。そうしないと、範囲が広くて何を検討していいのかぼやけてきてしまう。一番必要としている事をテーマとしたい。若者が出て行かない、集まるという事を一番に考えたい。既に行われている事業はだいぶ進んでいるので、それをあえてパンフレットに掲載しなくてもいいのではないか。それよりも若い人が関心のあるような内容を掲載することで、高校生や大学生をターゲットとしたい。

E 委員	③には今行われている事業を紹介し、④では協働の進め方を大きく丁寧に示した方が良いと思います。
事務局	前回までに①②の部分を決めて頂きました。今日の会議では③④の部分について協議頂いていますが、パンフレットを作るにあたってはストーリーというものも必要なのかなと思います。それとA3の折り込みパンフレットという事で、スペースも考慮して頂きたいと思います。狭い面に写真を使うとなると、小さくて見づらいという問題もあると思いますし、イラストにしてカバーするという方法もあると思います。
F 委員	ストーリーからすると③には進め方を紹介し、④で実際の事例紹介をした方がパンフレットしては見やすく、分かりやすいように思います。
委員長	それでは、見出しはいかがでしょうか。 協働を広めるのか進めるのほうが良いのか？
F 委員	G委員の提案にあるように協働の手がかりというのはいかがでしょうか。
D 委員	矢印で人の気持ちを表すのもひとつの手だだと思います。
C 委員	何を載せるのかによって見出しが変わると思いますが。
委員長	広めるための事業としては、学校関係・ボランティアなど大きな項目で4つくらい写真で載せればどうでしょうか。 まちづくり委員会・ボランティアとしてふれあい広場・教育として地域学校支援事業・人が集いにぎわう町づくり懇談会などでしょうか。ほかにも公民館講座や支え合いマップなども一例として考えられます。
A 委員	そのような事を念頭に置いて、もう少し③④について検討しなければいけないと思います。
委員	私としては、やはり効果という部分が大切と考えるので検討をお願いします。 これまで出た意見を含めて次回までに考えをまとめてきてください。
C 委員	本日の話し合いの部分で、事務局に③を作ってもらったらどうでしょうか。
事務局	③も④も写真を入れて説明文等で構成してしまうと、皆さんのように協働のまちづくりについて勉強している方はいいと思いますが、一般の方が手に取った時には協働の事業と広めるための事業という境もはっきりしていないという状況では、同じような事が載っていると感じてしまうのではないのでしょうか。 何かフローのような図を入れて工夫した方が、見る人も分かりやすいだろうし、ページの変化も生まれると思いますがいかがでしょうか。
F 委員	確かに③と④が同じ構成では物足りないと感じていました。

委員長	それでは、次回までにどのような構成がよいか、ストーリー性も含めて考えて来て頂くようお願いします。
委員長	次回は、3月6日（金）午後7時からお願いします。
副委員長	閉会